



01.08.披露宴会場となる料亭で度々を済ませ、雅楽隊と共に花嫁行列で西郷神社へ。嵐山の古い町並を歩く様はまるで時代劇のよう。神社では裕二さん一家が京子さん一家を出迎えた。これも別荘ならではのしきたり  
02.ざらりと涼しい夕涼み、春を感じさせる地元産の食材を使った料理が目を惹く  
03.「めでた」を唱う裕二さんの祝詞。聴いてゲスト全員が声を合わせる。永く明、響がれている心に沁みる頃だ  
04.贈り物とお品書きも昔ながらのもの。シンプルそのもの。高級に飾られた箱が、ひと足先に嵐山に春を運んで来たようだった  
05.華式へ向かう京子さんの門出の姿。目録の先には父の姿が  
06.ゲストから大きな歓声が上がったほど、立派な舞が囃る舞われた。顔と記念撮影  
07.裕二さんのおいと、親戚の女の子たちがサプライズで花束をプレゼント。花道を歩く際にゲストは目を細めた  
09.京子さんの前職の上司が手作りした木目込み人形。受付でゲストを出迎えた  
10.披露宴に行われた神前式。「この神社は友人も参列できるので喜びました」と京子さん



いつものふたり、いつものみんなだけど、  
“特別な何か”がある

What a Wonderful



飛騨の伝統を継承

## 「高山らしい結婚式に 憧れていました」

格式ある料亭で  
両家向かい合って  
祝いの膳を囲む

「映画のワンシーンのような  
写真を残したくて」。支度が  
整った、料亭の茶室で写真撮  
影に臨んだ、白無垢に地毛で  
結った日本髪姿の京子さん。  
手入れの行き届いた庭から差  
し込む春の日差しをまとい、  
艶やかさを放っていた。

高山市出身のふたりが望ん  
だのは、伝統的な結婚式。花  
嫁行列で護国神社に向かい、  
神前式後は岐阜県内最古の料  
亭での披露宴。ゲストの8割  
を親族が占めた。祝宴会場は、  
お膳が並べられた二階続きの  
和室。祝いのお菓子と桜茶で  
の「さかつき」ことで開宴し、  
しばらく料理を堪能したこ  
ろで、飛騨の祝い唄「めでた  
」が始まった。裕一さんの叔父  
が歌い出すと、全員がしみじ  
みと歌い上げる。この「めで  
た」が終わるまで席を立てて  
はいけないうのが飛騨のルー  
ル。ここからは屏を立ち、酒  
を酌み交わす。目の前には映  
画の世界が広がる。「賓物が大  
好きなので、ひと目惚れした  
縁起りの引き振袖と、袖付き  
の雲曲気のあるウエディング  
ドレスを選びました」と京子  
さん。手作りの小物類も、凝  
った演出もないんですと上と  
笑う。それでも両家の父をは  
じめ、ゲストは皆、祝いの酒に  
酔い、語り合い、笑い合う。  
両家の確かな絆を訪いだ3時  
間たった。

PROFILE

岐阜県高山市在住  
廣川裕二さん(29歳)  
京子さん(29歳)  
挙式日:2023年3月19日  
挙式会場:飛騨護国神社  
披露宴会場:内正  
招待客:38名



共に海外の大学を卒業後、リターンで  
高山の企業に同期で入社。2017年  
より交際開始。現在はふたりとも教員。

ウエディングには、「特別な何か」があるようです。

はっきりと目に映るものかもしれないし

言葉にできないものかもしれないけれど、「挙げて良かった」と思える“特別な何か”。

それは歩きだすふたりへの、エールに満ちた贈り物になりそう――。

東海

# Wedding!

※掲載している演出(プログラム)に関しては、  
会場とご相談の上ご検討ください。

構成・文 / 真下智子  
撮影 / 久保田 敦(結婚)清水結成(結婚)  
D / 山本尚生、田中敦子